

パンフレット

# VIAVI

## NoiseTrak™

### ノードとアンプ用の仮想 I-Stop

トラックをロールする前に、ノイズ源をノードまたは増幅器の単一レッグにリモートで分離することにより、イングレスをより速く見つけます。制限された MDU 内のサービスをリモートでローカライズして復元し、最終的な修正のためにアクセスをスケジュールします。

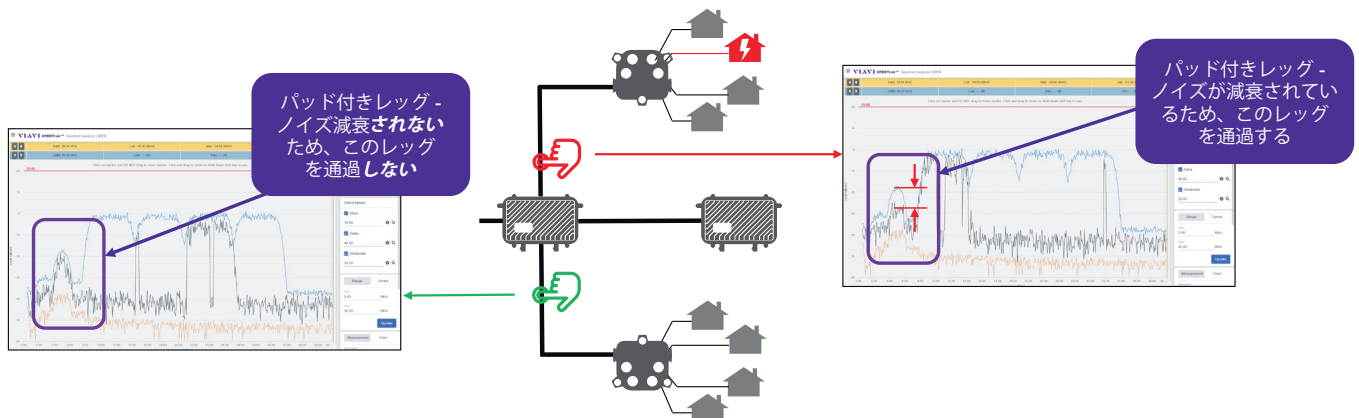
上り回線へのイングレスは、コストと顧客満足度の両方の観点から、ケーブル事業者にとって長い間最大の問題でした。既存の検索と修正の方法は機能しますが、費用と時間がかかり、多くの場合、サービスに影響を与えます。NoiseTrakを使用すると、エンジニアは従来のプロセスに従いますが、アクティブへの駆動を画面上のクリックに置き換え、時間と費用を節約し、故障期間の短縮と MTTR の低減を通じて顧客満足度を向上させます。

### エンジニアがどうすべきかすでに知っていることを仮想的にさせてください。

従来のイングレスの検出と修正は、通常、ノードから開始して外側に向かって作業し、責任のあるレッグが特定されるまで、結合されたスペクトラムに対する各アンプ/ノードのレッグのイングレスの寄与を調べます。NoiseTrak は同じアプローチを使用しますが、多くのノードおよびアンプベンダーによってサポートされているイングレススイッチのリモートコントロールを介してセグメンテーションプロセスを仮想化します。エンジニアは、XPERTrak ネットワークの階層表示からスイッチをリモートで選択してアクティブにする際に、タブレットでリターンの組み合わせスペクトラムを表示できます。

### 利点

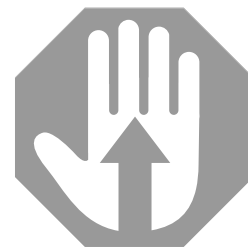
- 保守予算の 2 桁 % の節約
- トラックロールの前に検索エリアを大幅に削減
- MDU アクセスの遅延をなくし、修正ウィンドウをスケジュールする前にサービスをリモートですぐにローカライズして復元
- 遠く離れた地方や混雑した都市環境への出張時間を排除
- パッドを引いたり、ハウジングを開けたりすることなく、イングレス源をすばやく発見



## NoiseTrak によって解決される問題の例

### 制限付きアクセス MDU

インGRESSがMDU の入り口にあることを突き止め、アクセスを何時間も待って、結局に翌日に戻らなければならなかったことがありますか？ NoiseTrak を使用すると、エンジニアは制限されたMDU内のアンプにリモートですぐにアクセスし、アンプの片方のレッグにノイズをセグメント化し、リモートでパッドを入れてノードの残りのサービスを復元できます。その後、MDU 内の根本原因を修正するために、建物の管理者に連絡して、建物へのアクセスをスケジュールすることができます。



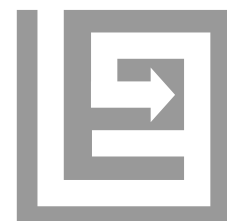
### メンテナンスによるカスタマーサービスの中断

ネットワークのメンテナンスは、最悪のレッグをすばやく見つけるため、作業者がアンプを開いてインGRESSを入れたり、パッドを引っ張るため、サービスに影響を与えることがよくあります（はい、エンジニアはまだパッドを引いています）。NoiseTrakを使用すると、ノイズをセグメント化するためにノードとアンプのハウジングを開く必要がなく、レッグのリモート減衰によってモデムがオフラインにならないようにチェックが行われます。NoiseTrak を使用したトラブルシューティング中に、加入者サービスへの巻き添え被害を最小限に抑えます。



### ロジスティックの課題

遠くの田舎まで車で移動したり、密集した都市部で悪夢の交通渋滞をナビゲートしたりするのに時間を費やすのはやめましょう。NoiseTrak を使用すれば、リモートでアクティブをセグメント化し、サービスを即座に復元できます。フェンス、犬、地下の金庫室などは、作業者がアクティブにアクセスする際に直面する課題のほんの一部です。アクセスしにくいアクティブに NoiseTrak を装備して、故障期間と MTTR を短縮しましょう。



### 断続的な問題

消えてしまったインGRESS源を 2 時間かけて探し求めたことはありませんか？ ノイズ源の停止が原因の場合もあれば、風や気温などによって変化するプラントが原因の場合もあります。原因は何であれ、作業員や顧客にとって迷惑です。NoiseTrakを使用すると、作業員はインGRESS源を発生中にプラントの小さなセクションにすばやく分離できるため、初回の訪問で見つけて修正する可能性が大幅に高まります。



## 今が NoiseTrak を導入する最適な時期です

これまでに、以下のネットワークの進化のうち、少なくとも1つを検討したことがあるのではないのでしょうか。これらは通常すべて、展開プロセスの一部としてアクティブへのトラックロールも含まれています。

- 上り回線分割の変更 – 高分割では、少なくともダイプレクサの変更のためにすべてのアクティブにアクセスすることが必要です。
- 分散アクセスアーキテクチャ (DAA) には、アナログノードをリモート PHY またはリモート MACPHY デバイス (RPD/RMD) に置き換えることが含まれます。
- 拡張スペクトラム DOCSIS (ESD) を含むダウンストリーム周波数帯域拡張では、多くの場合、増幅器の交換が必要です。

これは、新しいノード/アンプの部品表 (BOM) にイングレススイッチ機能を含めるか、上記の展開のために既存のアクティブを訪問するときに既存のアクティブを改造することを検討するのに最適な時期です。スイッチの増分コストは、それらが提供する利点に比べて最小限であり、リモートでの使用によって回避される一回のトラックロールでカバーできることがよくあります。

## 推奨される展開モデル

- すべての新しい RPD/RMD に展開
- スイープ、イングレス、メンテナンスのために訪問したときに、既存のアンプを機に応じて改造
- アクセスが難しいアンプに選択的に展開
- 改造ノード、N+1 または N+2 アンプ – 最も頻繁に訪問する装置
- すべてのアンプ交換用の部品表 (BOM) に含める
- 高分割アンプ展開の標準プロセスに含める



〒163-1107  
東京都新宿区西新宿6-22-1  
新宿スクエアタワー7F

電話: 03-5339-6886  
FAX: 03-5339-6889  
Email: support.japan@viavisolutions.com

© 2022 VIAVI Solutions Inc.  
この文書に記載されている製品仕様および内容は  
予告なく変更されることがあります  
noisetrak-br-cab-nse-ja  
30193434 900 0122